

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

【令和2年度要求額 6,721百万円 (5,905百万円)】

うち、国立環境研究所運営費交付金6,557百万円 (5,757百万円)

化学物質曝露が子どもの健康に与える影響を解明するための、長期的・大規模な追跡調査を行います。

- 1. 事業目的**
- ① 子どもの健康に影響を与える環境要因を明らかにするため、10万組の親子を対象とした大規模かつ長期のコホート調査として、参加者(妊婦)の母体血や臍帯血、母乳などの生体試料を採取保存・分析するとともに、子どもが13歳に達するまで質問票等による追跡調査を行う。
 - ② 本調査を実施することにより、環境リスク評価、化学物質の規制強化などリスク管理を推進し、結果として、次世代育成に係る健やかな環境の実現を図る。また、事業成果を情報発信し、エコチル調査の結果への関心を高める。

2. 事業内容

追跡調査を継続するとともに、令和2年度は、子どもの成長過程における化学物質曝露や健康状態を評価するための「学童期検査」を引き続き実施する。また、参加者から得られた450万検体にも及ぶ膨大な生体試料を引き続き計画的かつ着実に分析する(国立環境研究所運営費交付金)。

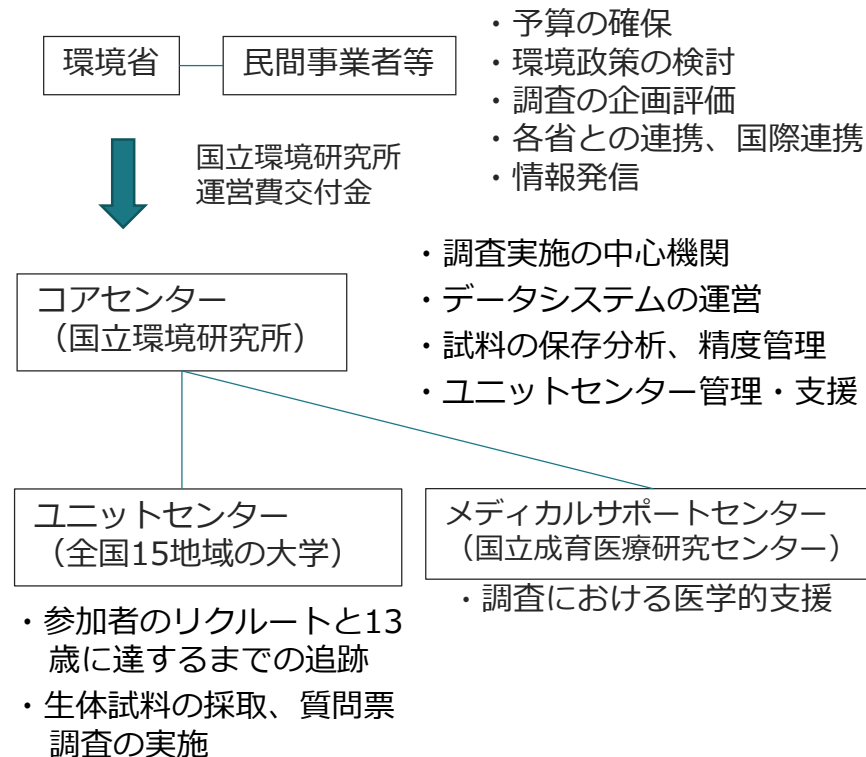
本調査の円滑な実施のため、国民、国内外の関係者との連携・コミュニケーションを図るとともに、調査の実施状況を把握し、企画評価を行う。また、調査成果を正しく伝えるための取組を行う(請負事業)。



3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業：民間事業者・団体
交付金：研究機関
- 実施期間 平成22年度～令和14年度

4. 事業イメージ



子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査） （うち、地域の子育て世代との対話事業）

事業目的・概要等

背景・目的

- ✓ 化学物質の利用は生活を豊かにするため、質量ともに増えているが、子どもの健康影響については未解明な点が多い。エコチル調査では、この点について科学的に研究を推進しており、今後、研究成果として学術雑誌での掲載が増加見込み。
- ✓ そうした中、子育て世代は身の回りの物に含まれる化学物質に漠然とした不安を抱えている。化学物質のリスクに関してネット・TV・雑誌で情報が氾濫しており、判断に悩む例は少なくない。
- ✓ 子育て世代が、化学物質の不安に向き合う上でのキーパーソン（インフルエンサー）となる、行政職員、医療関係者、教育関係者、報道関係者等は、必ずしも、化学物質の健康影響等について十分な知識を有していない状況。
- ✓ 子育て世代と関係者が化学物質のリスクについて向き合うことが可能な機会を広げるための取組が必要。

事業概要

- ① **パンフレットやQ&A等の対話の基本情報の作成**
 - ・ 基本情報として、化学物質やその健康影響の一般的な内容を伝えるパンフレットや、エコチル調査の研究成果をわかりやすく伝えるQ&A等の素材を作成
- ② **対話の実践に向けた事例集・ガイドラインの作成**
 - ・ 子育て世代と、化学物質のリスクとの上手な向き合い方について、地域での双方向性の対話を行いながら、効果的な対話手法を開発し、全国に取組を拡大するために、事例集としてとりまとめるとともに、ガイドラインを策定
- ③ **キーパーソン（インフルエンサー）に対する研修の実施**
 - ・ 化学物質の健康影響に関する地域における対話を促進するため、キーパーソン（インフルエンサー）に対する研修手法を開発（新規）

事業スキーム： 環境省 → 事業者

期待される効果

安全・安心な子育て環境の実現

- ✓ 子育て世代が、化学物質のリスクと上手に向き合うことが可能（正しくリスクを低減する行動等）
- ✓ 「子育て世代」同士や医療、行政等の関係者が化学物質のリスクについて対話し、寄り添い支え合う地域環境の実現
（地域循環共生圏）

【対話の例：セミナー・車座型】

- ✓ 既存の親子教室等を活用した30分から2時間程度の講義・意見交換を実施
- ✓ 子育ての悩み等から始まり、対話しながら、化学物質の健康影響等に関する理解を深める
- ✓ セミナーは、講師との意見交換が中心。車座型は参加者同士の意見交換が中心



イメージ